

社会福祉施設バージョンを開発！

静岡県避難所HUG使用許諾番号第49号

東日本大震災でも熊本地震でも、地震直後から社会福祉施設に利用者やその家族、在宅の要配慮者や一般避難者が押し寄せたため、入所者の安全を確保しながら避難者を受け入れ、その後福祉避難所に移行するという段階を踏んでいる施設が多数あったのが実情です。

このような事態が発生したとき、混乱とあわただしさの中で、社会福祉施設職員はどのように行動すればよいのでしょうか。

HUG 社会福祉施設バージョンとは

～入所者の安全を確保しながら、避難者をどのように誘導・配置するのか～

1 HUG と社会福祉施設バージョン

HUG は、2007年に静岡県が開発した避難所運営を学ぶゲームで、現在全国に普及し、東日本大震災や熊本地震等の実災害で役立った実績があります。社会福祉施設バージョンは、HUGの手法を活用して、大地震発生時の社会福祉施設の運営を模擬体験するゲームです。

2 ゲームの内容

ゲームは、とある特別養護老人ホームが舞台です。プレイヤーが夜勤の職員となって、入所者の安全を確保しながら、避難者の受け入れと配置、通所者や職員の安否確認、施設で発生する様々な出来事への対応を模擬体験します。

3 ゲームのしかた

ゲームは、読み上げ係1人、プレイヤー5～6人とし、避難者の情報が書かれたカードを順番に読み上げながら、プレイヤーに渡します。プレイヤーは、施設の受け入れスペースを探し、カードを配置していきます。また、イベントカードで与えられる様々な突発的な出来事に対応していきます。

4 被災地への取材と実施実績等

開発にあたっては、熊本地震や東日本大震災で被災した複数の社会福祉施設に聞き取り調査を行い、その内容を盛り込みました。

これまでに、熊本県、愛知県、静岡県内で実施しています。なお、開発にあたっては、福祉の専門知識を有する高齢者住まいる研究会にご協力いただきました。

※お問い合わせ先 ☎「HUGのわ」で検索してください。

(無料貸し出し、複製作成もお受けしています)

